

議事要旨

1. キトラ古墳周辺地区の役割について

- 国営飛鳥歴史公園の既存4地区との違いと、この地区の特性を活かしながら他の類似施設や観光施設と競合しない役割分担について、より明確にするべきである。
- 東アジア圏での交流をうたっているのだから、欧米その他にアピールできる観光資源となるようにして欲しい。
- 公園が地域への発信源となるようなきっかけづくりをし、にぎわいのある公園にしていくべきである。
- 村内では建築物を伴う開発が可能な地域が限られているため、本地区で飛鳥について事前に体験・学習を行い、それから村内各所を周遊するかたちが望ましい。

2. 維持管理・運営計画について

- 従来の公園や都市系の公園と異なり、運営方法などのソフトの整備に力を入れないと機能しない計画案であるため、公園供用時までには運営主体の成熟を目指した具体的な運営計画を明確にしていくことが重要である。
- 多彩なイベント計画に対応するために相当の組織と人材が必要であり、資金面での検討が必要である。
- 本地区内の管理運営には地域住民とボランティアに多く参加してもらうことが望ましいが、参加の割合の検討や専門家による技術指導などの支援体制の確立が必要である。
- 本地区内に地場産業の拠点・発信地となる場を設け、農業体験フィールドや周辺農地での収穫物や加工品の販売などを通し、地域住民がより深く運営活動に携わることができ、地域の活性化に結びつく仕組みを検討した方がよい。

3. 空間計画について

- 現在の谷に盛土をして古墳鑑賞広場をつくるという計画は妥当かどうか。また、もとの墳丘はもっと高い位置にあったと考えられ、復元整備すれば盛土は不要になるかもしれない。
- 古墳の調査完了・整備後には覆屋は撤去し、高松塚のように前面から古墳が見える状態になるとものとする。現在は墳丘の樹木を残す計画だが、樹木を伐採して古墳の外観を積極的に見せる案も考えられる。今後文化庁などと相談しつつ検討していく。
- 高取町との境界にあたる箇所でのキトラ古墳と金剛・葛城山系への眺望が優れているため、境界部周辺の整備及び高取町側の樹林地の取り扱いについて、高取町と協調して検討する必要がある。
- 公園の入り口に当たる部分に駐車場があるのは公園の印象としてふさわしくないため、可能な限り造成をせず地形を活かしながら、植栽や配置を再度検討する必要がある。ボランティアの活動拠点となるような施設がほしい。また、樹林地の植生の復元などをボランティアの手で行うなどのプログラムも考えられる。

4. 利用形態について(立地、アクセス、滞在時間など)

- 明日香村の南西の端に位置するため、他の地区との結びつきが重要で、周遊歩道、レンタサイクルとの関係を再度整理する必要がある。
- 飛鳥公園5地区で魅力のある公園にしていくべきであり、本計画による飛鳥での滞在時間の延長を見越しながら、現在の周遊ルートを見直す必要がある。

- これまで国営公園には設置してなかったレンタサイクル置き場を設置し、レンタサイクル事業とバス交通と連携することで、両者を自由に乗り継いで周遊できるようになり、今まで行けなかった新しい飛鳥を発見することができるようにする。
- 公園内、飛鳥全域を含めて、高齢者の移動のことも考慮した一連の道路体系を考えて欲しい。
- 多彩な体験学習やイベントの開催が計画されており、多様な参加形態が想定されるが、それぞれの滞在時間や利用の違いを具体的な割合として検討する必要がある。
- 所要時間の長い体験学習では、祝戸の宿泊施設などとの連携を視野に入れている。滞在時間を長くしていくことが飛鳥公園の課題であり、宿泊することで新しい飛鳥の楽しみ方を提案することができる。

5. 事業遂行に向けて調整すべき事項について

- 高取町との町村境界となる箇所では、植生や景観に関して協調した取り組みが求められる。
- 公園整備時には古墳そのものだけでなく、古墳前面をはじめとする史跡指定区域以外の場所でも事前の調査を行って欲しい。
- 次の段階としては、事業自体の目標達成度やコスト、リスクなどのチェック・評価ができる仕組みをつくっていくべきである。

6. パブリックコメントについて

- 今回の整備に関連性の高い高取町に関しては明日香村とともに、住民の意見を十分に聴取することが重要である。